

2009年度同志社大学大学院  
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程  
入学試験問題 〔小論文〕

第1問（配点：100点）

以下の文章を読んで、次の設問に答えなさい。

設問

- (1) 「 A 」及び「 B 」に記述されるべき文字を書きなさい。  
ただし、「 A 」は、20字以内、「 B 」は、10字以内。
- (2) この文章全体にふさわしい標題をつけなさい。

- (3) 「 C 」の部分には、ミシュラン製グルメ・ガイド<sup>注)</sup>の日本版をめぐる大騒ぎについての著者の意見が記載されている。この著者であればどのような意見を表明するかを推測し、書きなさい。また、なぜそのように推測するか理由も書きなさい。「 C 」について300字程度、理由について200字程度、合計500字以内で答えること。

注) フランスに本拠地を持つミシュランが世界20カ国以上で出版しているガイドブックのこと。飲食店の料理を星の数で格付けする点に特徴があり、アジアの飲食店について出版されたのは日本版（東京版）が最初である。掲載される飲食店の料理は、ミシュランの調査員が覆面調査をして評価される。

【文章の掲載は、省略。】

出典：馬淵明子著（学会会報 第870号，81－85頁，平成20年5月1日）。

第2問（配点：100点）

以下の各設問に答えなさい。なお、各設問における引用文は、市川伸一（著）『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書）から抜粋したものである（問題文作成の都合上、引用の順序を変えるなど編集している。引用文中の「・・・」の部分は、引用の省略を示している。）。

- (1) 以下の引用文のエピソードによって、人間はどのような推測をする傾向があると著者は主張しようとしているか、30字以内で答えなさい。

【引用文の掲載は、省略。】

出典：市川伸一著『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書 166－168頁，平成9年2月25日）。

- (2) 以下の引用文の実験結果から、人間のどのような傾向が看取されるかを指摘し、設問（1）で指摘された傾向と整合性がとれるかどうかを説明しなさい。あわせて120字以内で答えなさい。

【引用文の掲載は、省略。】

出典：市川伸一著『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書 175頁，平成9年2月25日）。

(3) 以下の引用文の統計によって、人間はどのような傾向があると著者は主張しようとしているか、30字以内で答えなさい。

【引用文の掲載は、省略。】

出典：市川伸一著『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書 169頁，平成9年2月25日）。

(4) 以下の引用文の「X」の部分を150字以内で補いなさい。但し、「・・・の広告を見るほうが多くなる。なぜなら、私たちは、・・・傾向にあるところ、・・・の広告を読めば、・・・ので、・・・と不協和を起こす可能性が高いからである。」の体裁にしてください。

【引用文の掲載は、省略。】

出典：市川伸一著『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書 170－172頁，平成9年2月25日）。

(5) 以下の引用文の「Y」の部分を200字以内で補いなさい。但し、「学習の結果を・・・に帰属した場合である。なぜなら、・・・。」という体裁にしてください。

【引用文の掲載は、省略。】

出典：市川伸一著『考えることの科学－推論の認知心理学への招待』（中公新書 162－163頁，平成9年2月25日）。

(6) 著者は、設問(5)の引用文に続く部分において、子どもたちに学習相談活動を行なうときに、一定の状況にある生徒に対して「まだまだ努力が足りない」というような言い方はしないと述べている。その理由として、そのような状況にある生徒が決定的な能力帰属に陥ってしまう危険性があることを指摘している。設問(5)の引用文を踏まえて、一定の状況とはどのような状況であるかを20字以内で答えなさい。